

埼玉親善大使レポート

・現地での生活や様子について

私が留学していた大学は、ネブラスカ州のオマハにあるクレイトン大学です。クレイトン大学は、カトリック系の総合大学で豪華な教会が大学敷地内にありました。ク

レイトン大学の学生は、カトリックの生徒が多く、毎週日曜日に大きな礼拝がありました。普段日本で、触れたことないカトリックの教会や定期的に行われる礼拝に現地で仲良くなったアメリカ人やクラスメイトの聖職者の方に誘ってもらい参加しました。教会では、聖書に書いてある教えや考えを共に



図 1 : St John's 教会

考察したり歌を歌うなど、とても貴重な体験ができました。そんな経験のなかで、ともに考え自分の意見を主観的多感的にみる場を定期的に設けている礼拝という場は、とても有意義な場であると感じました。

私が受講していた授業は、英語集中講座で、科目は 4 科目 Advanced Reading, Writing, Grammar, Speaking/Listening を受講していました。私のクラスは、留学生のみのクラスで、ドミニカ共和国、スペイン、パキスタン、ベトナム、ブラジル、日本の 6 か国の国際色豊かなクラスでした。授業内では度々自国の文化の違いが話題にな

りました。中でも私が驚いたのは、スペイン人の留学生が話していたシエスタという文化です。シエスタとは昼寝時間のことで、学校や仕事中に寝る時間が割り振られており一日のルーティンの中に当たり前のように存在していると話していました。留学ではそのような他国の文化や慣習に触れる機会が多くあり、たくさんの英語以外の学びがありました。

・自身の活動について

大学の SCSJ 402 Service Program に参加し、地元の学校の子供達に英語を使って本の読み聞かせを、毎週木曜日に1時間行っていました。その後1時間は、反省会を含む教育のあり方についてディベートをグループ内で行っていました。小学生の子供たちは、英語が第二言語の子が多く、コミュニケーションをとるのが大変でしたが折り紙で鶴や手裏剣を作ると喜んでくれて日本への興味を示してくれました。



図 2：同僚や生徒からの手紙

学校で友達を作る際にも、日本のお菓子屋、折り紙で日本に興味を持ってもらうよう心がけていました。

・埼玉県を PR した事例

実際に埼玉県を PR した事例として、授業後の時間をお借りして自分の出身の埼玉県を紹介させていただきました。戸田市の戸田花火大会や川越の小江戸などたくさんの埼玉県観光名所や、東京に近くアクセスのいい

点、美味しい食べ物などを PR しました。留学期間、私が日本の PR を続けていたおかげで、何人かのクラスメイトが日本に興味を持ち、日本に来日した際には埼玉県にも訪れたいと話



図 3：埼玉 PR 発表

てくれました。留学を通して、自分の国さらには、出身の埼玉県の素晴らしさを再認識しました。

最後にこの素晴らしい経験ができたのも、埼玉世界行きの奨学金をはじめたくさんの協力があったからだったと実感しています。今後、自分がアメリカ留学で学んだことを埼玉県に還元できるように努めたいと思います。ありがとうございました。